

たんご
丹後のブナ林は緑のダム

たんごはんとう 丹後半島にある宮津市のせやこうげん 世屋高原と京丹後市大宮町のうちやま さかい 内山の境には、近畿地方でも大きな広さを持つブナの天然林が広がっています。

ブナ林は「緑のダム」と呼ばれています。なぜかという、ブナは秋になるとたくさんの葉を落とし、その腐葉土のあいだにたくさんの水をたくわえてくれるからです。この水は、森の中の草や木、動物たちの命をはぐくみます。それから、森の土や石が水をきれいにし、川へ、海へと流してくれます。山のふもとに住む人たちは、この水のおかげでお米や野菜を作ることができ、豊かに暮らしているのです。



京都府では、たんごかみせ 丹後上世屋内山地域の貴重な自然を守るためこの一帯を「京都府自然環境保全地域」に指定して保全しています。
(平成14年3月指定)

丹後上世屋内山
京都府自然環境保全地域



いつまでも守りたい丹後の「大ブナ」

このブナ林の中には「大ブナ」とよばれる京丹後市の天然記念物になっている巨木があります。どうしてこのような形になったのでしょうか。

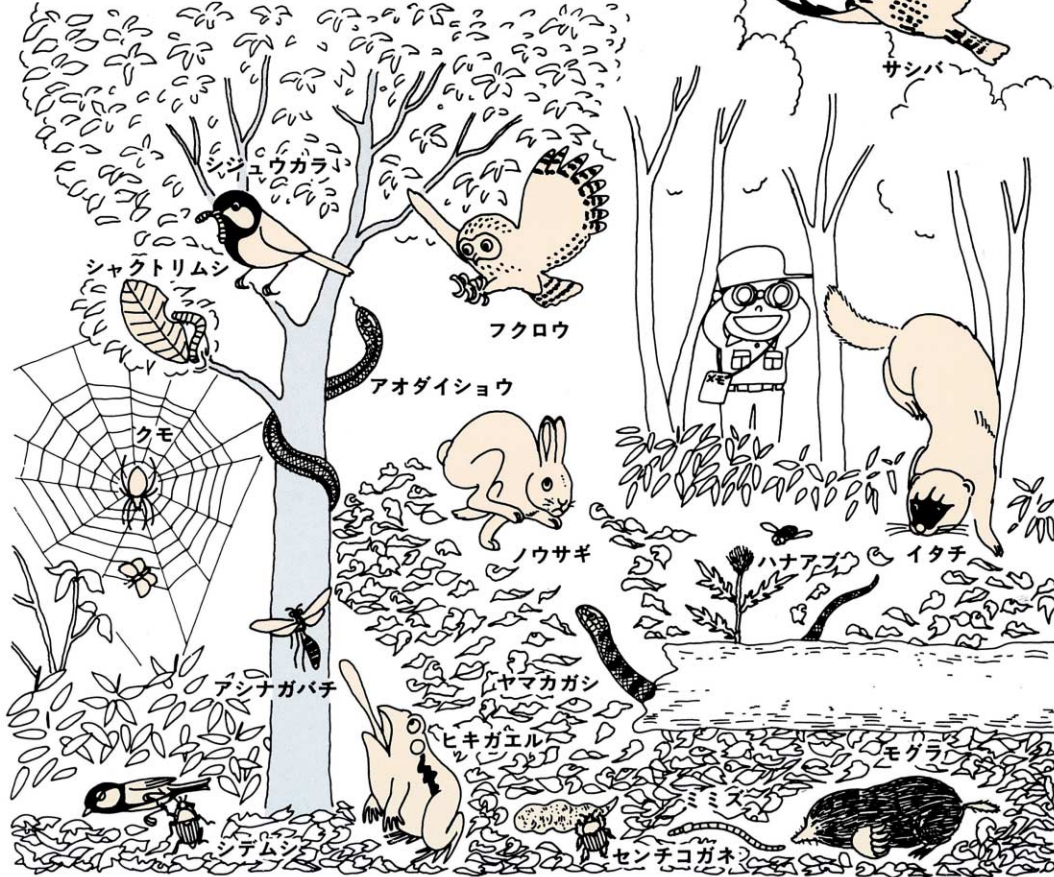
この地域では、冬になると今でも1mから2mもの雪がつもります。昔はブナの木を使って、さかんに炭やきが行われていました。雪の上にてた枝の部分をきって、炭やき用の木として使うために、後に残った株から何本もの枝が伸びて枝分かれをします。それから何百年もの間、丹後の強い風や深い雪にたえているうちに、写真のような形になったといわれています。



このブナ林には、ヒダサンショウウオなどのめずらしい生きものがいます。地元の小学校では、このようなブナ林のとくちょうやここにすむ生きものを調べたりして自然のすばらしさを学んでいます。

昔から人々の暮らしを支え、地元の人々により大切に守られてきた自然を、次の世代の人たちにも伝えていくことはとても大切なことです。このような貴重な自然をいつまでも大切に守っていききたいものです。

食べものによるつながり



「雑木林の自然かんさつ」(財)日本自然保護協会より

どの生きものが
どの生きものを
食べているのかな？
絵をみながら
友だちといっしょに
はなしあってみよう。



しよくもつれん さ
食物連鎖ってどういうこと？
生きものどうしが互いに「食う、
食われる」の関係でつながっている
ことを「食物連鎖」といいます。
タカやクマなどの大型の生きもの
も、死んでしまえばほかの生きもの
に食べられ、さらに細菌などの目
に見えない小さな生きものによって分
解され、土に帰っていくのです。
森の中だけでなく川や海にも、生
きものどうしのつながりがあります。

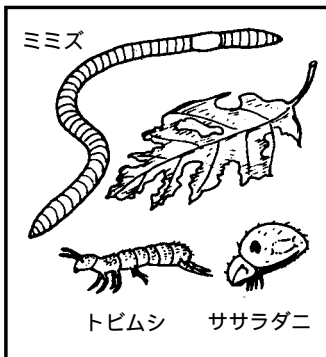
土の中の生きもののつながり



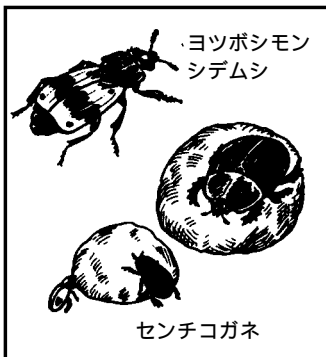
目に見えないところにも
たくさんの生きものがいて、
互いにかかわりながら豊かな
森や林を作っているんだな。

“土の中の森”の動物たち

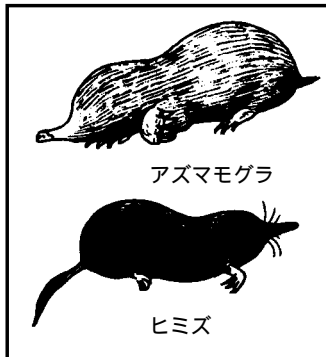
落ち葉を食べる動物



ふん 腐肉
糞や腐肉を食べる動物



それらの動物を食べる動物



「自然観察ハンドブック」(財)日本自然保護協会(平凡社)より

